

保育士試験 「社会福祉」 過去問分析 出題予想（傾向と対策）

※社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の資格者は免除される科目

はじめに 試験問題の解答には文章や文脈による“流れ”をつかむことが大切です。以下の文章に何度も同様の表現が出てきますがご理解ください。ケアレスミスは「分かった！！」と思った瞬間に問題を全部読むことを中止したり、読み返すことをしなかったりするために発生するケースが多いのです。とくに事例は日常の経験から解答できる問題がほとんどといっても過言ではありません。試験は受験して合格するだけでなく保育についての必要な知識が自然と理解できるので、勉強していてとても充実した気持ちになります。当然合格した時の達成感と言うまでもありません。

1. 解答形式 過去 100 問中

○×形式 87 並べ替え 4 正しい 4 不適切 3 () 形式 1 その他 1

○×は絞り込み 組合せは文章をよく読み文脈で 不適切問題はよく読んで確実に

※○×の解答形式が多いということは、文章の量が多いということ。よく読まなければ正解につながらないし、限られた時間の中では前半に時間をかけると、後半に考える時間が取れなくなり、集中力にかけてしまう。出題もそれを狙ってか、前半に迷わせる出題が集中している。後半は比較的判りやすい問題もあるので、判るところをどんどん解答してしまおう。問題用紙に解答を控える際の注意点は、その控えた解答番号をマークシートに一度に書き写すとずれてたいへんなことになる場合があるということ。できれば番号を確認したら2、3問ごとに解答を書き写されることをお勧めする。

2. 6割12問（10問出題は6問）得点のための出題出所内訳（キーワード）

- A ○○法 合計 34 件
- B ○○制度 合計 16 件
- C 相談（援助） 合計 15 件
- D 子どもの権利条約 合計 2 問
- E 障害者権利条約 合計 2 問
- F 障害者（キーワード） 合計 17 件

3. 法律・制度・条約

たくさん件数があるように感じるが、最初の序文や目的に当たる第1条についての出題があった。テキストに法律の要点がまとめてあるので、自分なりに要点をまとめた表を作成されることをお勧めする。

4. 年代の並べ替え

ほぼ、20問中に1問はあると思ったほうが良いだろう。ただし、この問題を正確に解答しようとするとな勉強量が多すぎるので、社会福祉法や児童福祉法などの主なものについて大体の見当がついていればいいと思う。わかるにこしたことはないが。

6. 科目としての難易度

この科目は子ども家庭福祉と同様に項目が多岐にわたるので勉強するのにどこから始めればいいのかとても迷う。おまけに法律と制度、条約についての問題が多いうえに、○×式なので、文章量がやたらと多い。基本的にはテキストから法律などの要旨（なぜ、いつ頃など）を抜き取って自分なりのリスト（表）の作成をお勧めする。他の科目とも関連した問題も多いので作成したリストが無駄になることはない。問題自体は常識に沿ったものもたくさんあり、基本路線さえ外さなければ12問の正解獲得はわりと固いと思う。

ご注意：この出題予想で試験が合格できるわけではありません。受験する人のモチベーションアップに貢献することで、受験勉強をより楽しく、効率的にしたいという思いで作成しています。

参考テキスト

「保育士 完全合格テキスト 上・下」翔泳社

参考サイト

厚生労働省

参照法令

社会福祉法 児童福祉法